

【二】【訳】を参考にして、傍線の現代語訳として適切なものを選び、解答欄に番号を記入しなさい。

問一

秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる

【訳】秋が来たど、目にははつきりと見えないけれども、風の音によつて「秋の訪れに」( ) (されてしまうことだよ。)

- ① はつと気づく ② びっくり ③ 納得さ ④ 思い出さ

[ ] [ ]

問二

いかでこのかぐや姫を得てしがな、見てしがな。

【訳】何とかしてこのかぐや姫を自分のものにした、( ) たい。

- ① 夫婦になり ② 見つめ ③ そと見守り ④ 垣間見し

[ ] [ ]

問三

などか久しく見えざりつる。遠さかる昔の名残にも思ふを。

【訳】どうして長く( ) なかつたのか。遠ざかつていく思い出のよすがにも思っているのに。

- ① 行方がわから ② 出会う ③ 見られ ④ 姿を見せ

[ ] [ ]

問四

姉のなやむ( ) とあるに、ものさわがしくて、

【訳】姉が( ) ことがあつて、何かと取りこんでいて、

- ① 病気になる ② 結婚する ③ 宮仕えする ④ 出産する

[ ] [ ]

問五

いらふべき方もなければ、つくづくとうち眺めて、

【訳】( ) ことのできる方法もないので、しんみりと物思いにふけて、

- ① 手紙を書く ② 触れる ③ 返事をする ④ 会いに行く

[ ] [ ]

問六

やうやう夜も明けゆくに、見れば、みて来し女もなし。

【訳】だんだん夜も明けていくが見ると、( ) (てきた女もいない。)

- ① 帰つ ② 遅れ ③ やつ ④ 引き連れ

[ ] [ ]

問七

「ゆめ、異男したまふな。われにあひたまへ。おほきになりたまはむほどにまあり来む。」

【訳】決して、他の男を夫としなざるな。私と( ) (てください。大きくならない頃にお伺いするつもりだ。)

- ① 話し ② 来 ③ 相談し ④ 結婚し

[ ] [ ]

問八

面をのみまもらせ給ひて、物ものたまはず。

【訳】顔ばかりを( ) (なまけて、ものもおつしやらない。)

- ① じつと見つめ ② 好み ③ 護衛 ④ 重視

[ ] [ ]

問九

わりなく苦しきをねんじてのぼるに、

【訳】どうしようもなく苦しいのを( ) (て登るが、)

- ① 我慢し ② 拒否し ③ 予想し ④ 困惑し

[ ] [ ]

問一〇

もみぢ葉の散らふ山辺ゆ漕ぐ舟のほひにめで出て来て来にけり

【訳】紅葉の葉がしきりに散る山のあたりを漕ぐ舟の、色の美しさに( ) (て、「私は」出てきてしまった。)

- ① 心引かれ ② 心変わりし ③ 驚い ④ 茫然自失になつ

[ ] [ ]

問一一

日ごろ月ごろなやみわたるがおこたりぬるも、うれし。

【訳】幾日も幾月も病氣だったのが( ) (たのも、うれしい。)

- ① 続い ② 快方に向かつ ③ それほどでなかつ ④ 悪くなつ

[ ] [ ]

問一二

先帝の御面影、忘れんとすれども忘れられず、しのばとすれどもしのばれず。

【訳】前の帝の御面影が、忘れようとしても忘れられず、「悲しみを」( ) (ようとしても) (できない。)

- ① 我慢し・我慢 ② 共有し・共有

③ 文章にし・文章に ④ 忘れ・忘れることが

[ ] [ ]